

新聞活用の意義議論

秋田でNIE学会開幕

授業で新聞を活用するNIE(教育に新聞を)の意義や実践方法などを議論する日本NIE学会が24日、秋田市内で始まり、シンポジウムや研究発表があった。「東日本大震災とNIE」と題されたシンポジウムでは、震災報道の記事を授業で活用した教員らが、効果や課題について議論。

仙台市立八乙女中の菅原久美教諭は、記事の切り抜きを実践したケースを紹介し「肉親を亡くした子どももおり、内容によっては配慮が必要だったが、記事を通じて、どうしようもない思いを一緒に語ることができた」と話した。鳴門教育大学院の阪根健一教授(学校危機管理)

は「震災を風化させないためにも、震災報道の記事を教材化するべきだ」と指摘した。記念講演した小原友行(島大大学院教授(NIE学))は「新聞を読むことで、現実の社会問題をどう考え、判断し、表現するのかを学ぶことができる」と強調した。25日には全国の教員が学校現場での取り組みを紹介する分科会が開かれる。